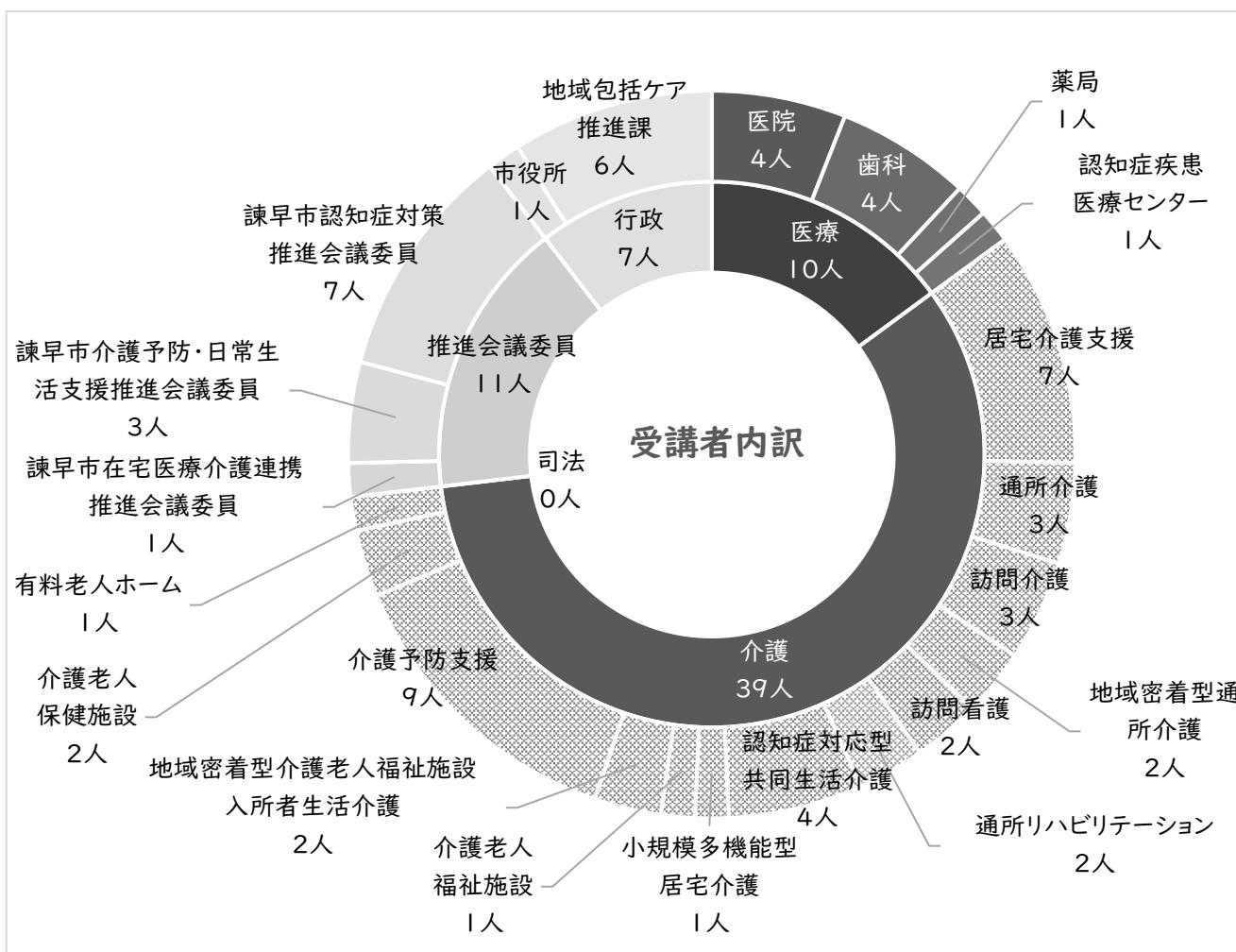


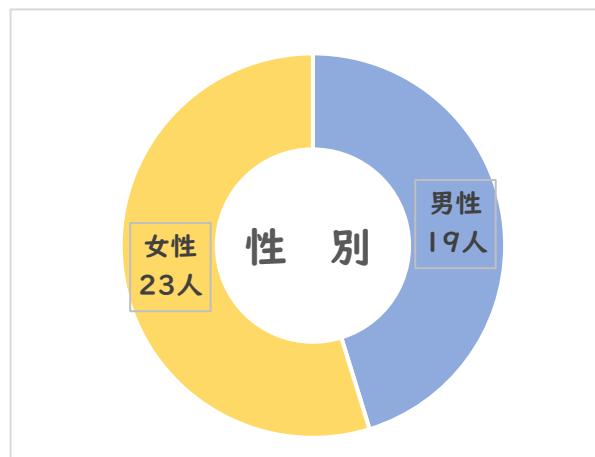
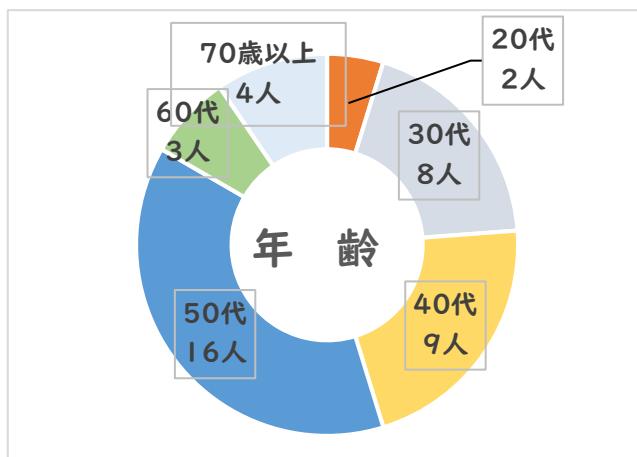
I. 受講者内訳

申し込み		受講者数	アンケート回答者	アンケート回答率
事業所数	人数			
38か所	65人	61人	42人	68.90%



<< 年齢 >>		(N=42)
年齢	内訳	人数
年齢	20歳以下	0人
年齢	20代	2人
年齢	30代	8人
年齢	40代	9人
年齢	50代	16人
年齢	60代	3人
年齢	70歳以上	4人
年齢	未回答	0人
%	0.0%	4.8%
%	19.0%	21.4%
%	38.1%	7.1%
%	9.5%	0.0%

<< 性別 >>			(N=42)
年齢	男性	女性	未回答
年齢	19人	23人	0人
年齢	45.2%	54.8%	0.0%

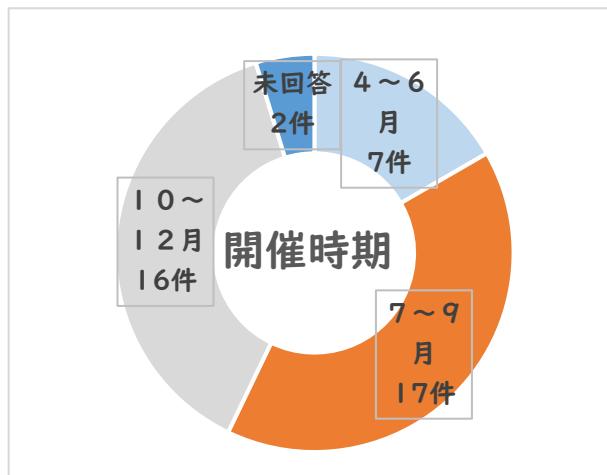


2. 研修の時期や曜日等について

「<<開催時期>>」

(N=42)

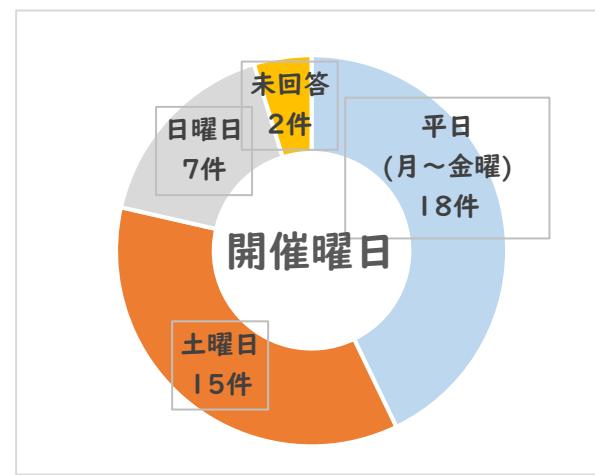
4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	未回答
7件	17件	16件	0件	2件
16.7%	40.5%	38.1%	0.0%	4.8%



「<<開催曜日>>」

(N=42)

平日(月~金曜)	土曜日	日曜日	未回答
18件	15件	7件	2件
42.9%	35.7%	16.7%	4.8%

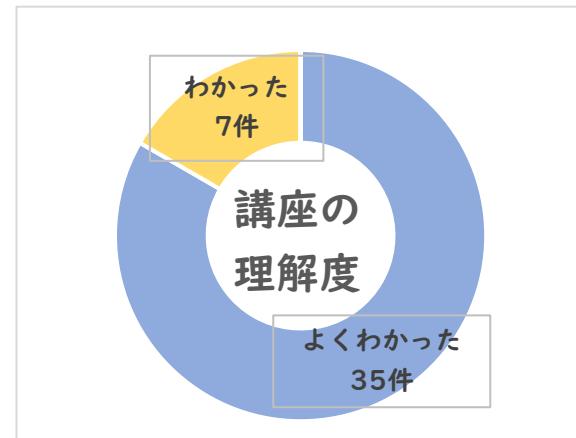


3. 研修内容について

【認知症フレンドリー講座】

(N=42)

よくわかった	わかった	よくわからなかつた	分からなかつた	未回答
35件	7件	0件	0件	0件
83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%



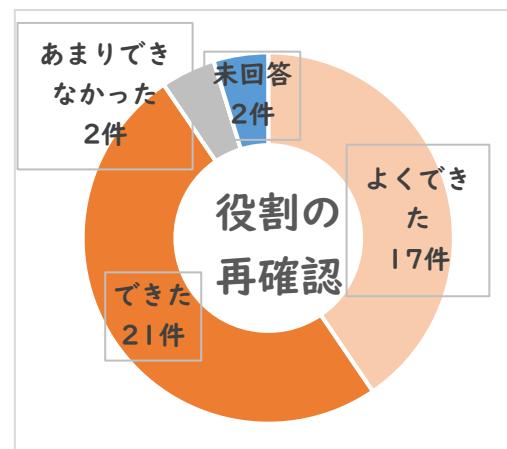
●認知症VR体験をして、本人はどのように感じていると思いましたか？

- ・不安や恐怖、とまどい
- ・自分がどうなってしまうのか分からぬ
- ・恥ずかしい
- ・誰かの助けが欲しい
- ・不安な気持ちで一步踏み出せない
- ・外出したいという気持ちがなくなる
- ・今まで出来ていたことが徐々にできなくなる、もどかしい気持ち
- ・視界も狭く、階段の昇降も大変。焦らせてしまうと余計にパニックになってしまう。

【事例検討】

- 自身の専門職としての役割が再確認できましたか？
(N=42)

よくでき た	できた	あまりでき なかつ た	できなかつ た	未回答
17件	21件	2件	0件	2件
40.5%	50.0%	4.8%	0.0%	4.8%



<研修日時等>

- ・個人的な意見ですが、日、祝日しか休みがないので、開催日はそこを避けていただけたら嬉しい。
- ・可能であれば、年2回程度がいいのではないか、と思った。
- ・ボリュームが多かった。グループワークをもっと活発にしたかった。
- ・内容を詰め込みすぎだと思った。

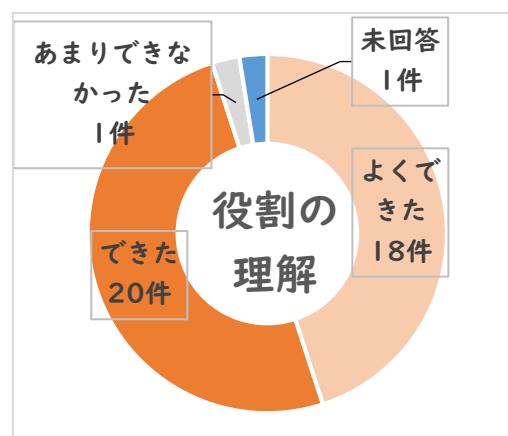
<研修内容>

- ・初めての参加だった。今後も多職種の方と繋がりを持てるように参加したいと思った。
- ・色々な多職種の方々の考え方をまとめて、諫早市で認知症の方を守っていくのが最高だと思う。
- ・VRでの体験ができた事で当事者の気持ちが少しでも感じられた事は収穫だった。グループワークではドクターを含む専門職ならではの意見が多くあり、今後の選択肢の広がりを感じた。
- ・今後もこのような機会があれば参加していきたい。
- ・今回の研修では、講師の方が記者の立場で認知症にどう携わってきたか、これまでの経過など、専門職とは異なる視点で伝えてください、新鮮だった。VR体験も大変参考になった。
- ・認知症を深く理解し、認知症の方のお気持ちを改めて知ることができて、介護に対する考え方や思いの再確認ができた。
- ・多職種のグループで事例検討するのは参考や勉強になる。
- ・これまで認知症の支援者の立場で自分が何ができるか、認知症の症状をいろいろ考えていたが、今回の疑似体験の研修で、いろいろ考えなくても、差し伸べるタイミングと声掛け方が分かりました。(認知症のレベルと病名により症状は違いますが、認知症の恐怖感は伝わりました)

●多職種の認知症支援に関する役割が理解できましたか？

(N=42)

よくでき た	できた	あまりでき なかつた	できなかつ た	未回答
18件	20件	1件	0件	1件
42.9%	47.6%	2.4%	0.0%	2.4%



●地域において多職種連携をすすめるには、どのようなことが必要だと思いますか？

<顔の見える関係>

- ・一緒に働くこと、話すこと、顔を合わせる事。
- ・お互い顔見知りの関係。
- ・顔の見える関係づくり。

<互いの役割を知る>

- ・地域での多職種の専門性の強みを専門職から地域住民まで理解を深め、困り事には専門職に頼る拠り所があることまで伝える事。
- ・お互いの職種ができる事を知ることが必要。
- ・仕事でも地域でもどのような職種でも、認知症をお持ちの方に対して自身の職能で出来る事を見つけた時には自分から発信する事や難しい場合には周りの職種への相談、声かけがしやすい環境づくり。声掛け先、相談先が増えると良いのではないかと思う。

<相談しやすい関係性>

- ・気軽に報告、相談できる関係性の構築。
- ・常日頃からの情報共有や何でも話せる関係づくりが必要だと感じた。
- ・普段から他機関と良い関係性を築き、情報共有をしておくことが必要だと思う。
- ・多職種同士のコミュニケーションが大事。

<連携>

- ・患者様の症例などを話し合いをして、連携したい。
- ・まずは事業所内での多職種連携を強化する。
- ・情報の共有、交換。
- ・認知症の症状の共通理解のもと連携する。
- ・包括を中心に連絡を取り合う。

<手立て>

- ・このような研修など集まり、イベントに参加する事が大事だと思った。またこのような事を無理なく継続する事、参加する事を楽しむことも大事だと思った。
- ・日頃はなかなかこれだけの職種が集まる機会がないので、今回のような研修会などを通して顔をつきあわせていきたい。
- ・定期的な合同の学び場や意見交換の場づくり
- ・多職種の話が聴ける場へ参加し、それぞれの役割を理解する事や情報共有する事。

4. 今後の業務の中で参考にしたいこと・取り入れたいことはありますか？

<本人の視点に立った支援>

- ・認知症の当事者の声を聞くこと。
- ・認知症の方の視点に立った考え方。
- ・要介護者の視線に立って考えるより、介護者視線に立って考えている事に気づかされた。視点を変えながらケア、治療を行いたい。
- ・利用者、入居者の視点に立った介助、介護。
- ・VRで感じた事を地域の人にも伝えていきたい。が認知症を正しく理解していただくために、疑似体験の内容を伝えたい。また、今回研修に参加できなかった職員にも伝えたい。
- ・認知症疑似体験で学んだ事の情報伝達。

<対応の仕方>

- ・認知症の方の感覚や視覚の疑似体験で、声かけのタイミングや声掛けの有効な方法が分かった。
- ・今回は認知症の方やそのご家族の気持ちを少しずつですが理解できたと思うので、参考にして寄り添えたらと思う。
- ・認知症の方や家族に対する言葉から伝わるイメージを考えて話し方に気を配る。
- ・認知症の方に対する接し方や考え方。

<連携>

- ・積極的に多職種へ相談する。研修会に参加する。
- ・今後職場でもチームワークを発揮できるように取り組んでいきたい。
- ・困っている事をお願いする。
- ・多職種の連携より、認知症の方に限らず、必要な方に必要な支援が行き届く事を目指す。
- ・多職種との連携の強化。
- ・ケアマネの資格を取得したので、今後資格を活かし連携していく様に学んでいきたい。
- ・多職種の方々とご理解できる報告書を取り入れたい。

<その他>

- ・「徘徊」等介護用語の言い換えをすすめたい。